

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

5月、真夏日を記録したと思ったら10度以上気温が下がる日が。子規は「五月雨は人の涙と思ふべし」と句に詠んだが、今年の雨に

は寒さを感じてしまうほどだ。また詩人の吉野弘さんは5月に吹く風の肌触りを「お母さんの頬すり」に例え、母なる一字から舟を頭に浮かべ「母は・舟の一族だろうか・こころもち傾いているのは・どんな荷物を・積みすぎているせいか」と。この異常気象を引き起こす現象は、人の心さえ蝕んでしまっている。

熱中症患者の防止から「暑熱馴化」に関心が高まっている。徐々に体を暑さに順応させる事で、暑熱馴化や暑熱順応とも言われている。日本気象協会は、こまめな水分と適度な塩分の補給をアドバイスしている。暑熱馴化には個人差はあるが、数日から1週間程度かかるので予防には注意が必要だ。

今週初め、松本信金で年金を受け取っているメンバーの会「信寿会」で「ふれあい親睦の旅・ぎふワールド・ローズガーデンと長良川でのホテルランチ」に参加する。コロナ禍で多くの親睦の機会がなかったため白馬支店から20名の参加者が大型観光バスに乗り込んだ。

## 日常の生活と違った時間の流れが旅の魅力だ

訪れたのは岐阜県可児市にある花フェスタ記念公園から名称変更された「ぎふワールド・ローズガーデン」。世界有数のバラ園と評価されるだけあって、庭園設計、演出・展示方法も多様で、広大な敷地の中で、バラの匂いに包まれた時間を楽しむことができた。昼食は「長良川岐阜グラインドホテル」で。私自身、アレルギー対応料理をお願いしてあったが、料理の工夫もあり、旅先での久しぶりのア

ルコールを楽しみながら岐阜の旬の素材の食事を楽しむことができた。そして旅の楽しみの一つのショッピングは「中津川ちこり村」に。チコリはヨーロッパではサラダなどでお馴染みの野菜だ。江戸時代後期に観賞用・薬用に

産野菜でもある。地域づくりには、他の地域にない特産物の必要性を再度確認することができた。旅行は、信金スタックラム会員・白馬村森上フの心温まる対応に来年も参加したいの思いが募った旅でもあった。



約6000種2万株のバラの香りは心を癒やしてくれた

(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)